

【小学校・中学校・義務教育学校用】
令和3年度学校評価計画

学校名 佐賀市立高木瀬小学校

達成度(評価)
A 十分達成できている
B おおむね達成できている
C やや不十分である
D 不十分である

1 前年度 評価結果の概要
 ・中間評価では、14項目のうちA評価は6項目、B評価は8項目であったが、最終評価では、A評価は8項目となり、2項目が高評価となった。中間評価での取組反省を生かして、現状を変えようとする教職員の意識化と具体的な改善(強化)策が図られたためと考える。提案する部会単独での努力ではなく、チームとして全職員が取り組むことの大切さを実感できた。
 ・本校の特色である「無言・無音掃除」「高小流あいさつ」は、良き伝統・習慣として定着している。また、国語科の校内研究として1年目であったが、教材研究に熱心な教職員が多く、学び部提案を基にした授業作りを積極的に取り組んだことで、児童の学力向上に大きな成果を得ることができた。
 ・学校生活ではある程度達成できている「自主学習」「履物そろえ」が、家庭生活ではなかなか実践できていない。また、相手を尊重した「さん付け」は、児童・保護者とも評価が低い傾向にあった。学校での取組内容について、より多く・より詳しく保護者に対して情報発信を行い、理解と協力を得ることが必要である。今後は「いつでも・どこでも・だれにでも」をキーワードとして位置づけ、学校・地域・保護者が取組を共有できる体制を強化していきたい。

2 学校教育目標 えがお かがやく 高小の子供
 ～「時を守り 場を清め 礼を正す」～

3 本年度の重点目標 「郷土愛の育成」「ほめほめ活動の推進」「『時を守り 場を清め 礼を正す』の徹底」が本校の特色である。これらの特色をより強固にしなが、ますます『えがお かがやく 高小の子供』を育てる。
 ○「時を守る」・・・「時間を守る」 ○「場を清める」・・・「整理整頓をし、清潔にする」 ○「礼を正す」・・・「相手を尊重し、礼儀正しくする」 ○「時・場・礼」の基盤・・・「早寝早起朝ごはん」「高小流あいさつ」

4 重点取組内容・成果指標

(1)本年度重点的に取り組む独自評価項目(本校の特色)				中間評価		最終評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗状況(評価)	進捗状況(評価)	実施結果	学校関係者評価(評価/意見や提言)	
◎志を高める教育(郷土愛)	○佐賀や日本の誇り手育成するための地域(家庭)の協働意識の向上	○「学校は地域(家庭)と連携して、特色ある教育活動を行っている。」と答える児童を75%以上にする。	・コロナウイルス感染対策をしながら地域やPTAとの連携を図り、行事の在り方を模索して計画する。 ・地域住民や保護者に学校行事への参加・参画を依頼するとともに、児童が地域行事に参加しやすいように、地域やPTAからの情報を学校でも伝える。 ・職員も年間3回を目標に、PTA・地域行事(夏祭り、文化祭など)に参加・参画する。					主幹教諭 指導教諭 教頭
○「ほめほめ活動」	○自己肯定感・自己有用感の高揚	○「友達の良いところを認め、ほめている。」と答える児童を80%以上にする。	・各学級で、朝の会等を利用して、級友を認め合う。 ・給食の時間に「ほめほめタイム」を実施し、全校児童を呼名してほめ合う。 ・計画委員会で「ほかほかポスト」を設置し、「友達の善行」してもらってうれしかったこと」を募り、紹介する。					指導教諭 教頭 主幹教諭
○人間形成の土台づくり	○「時を守り 場を清め 礼を正す」態度の育成	○「『時を守り 場を清め 礼を正す』に気を付けて生活している。」と答える児童を90%以上にする。	・朝の放送、昼の放送の時、「時を守り、場を清め、礼を正す」という言葉から始めることで、常に児童に意識させる。 ・「時・場・礼」について放送内容を考えることによって、児童の生活に浸透させる。					主幹教諭 指導教諭 教頭
(2)共通評価項目(重点4項目)				中間評価		最終評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗状況(評価)	進捗状況(評価)	実施結果	学校関係者評価(評価/意見や提言)	
●学力の向上【時】	○児童が自ら進んで学習活動に取り組む授業の実践	○「授業中、自ら進んで学習活動に取り組んでいる。」と答える児童を80%以上にする。	・国語科において、児童が目的をもって学習に取り組めるような学習課題を設定し、「問い」に向かって言葉を根拠に考える授業を実践する。 ・すべての児童が自律的に学習に取り組めるよう、業間の進め方や授業の進め方、授業の流れを全校で統一して共通確認して実践する。					まなび部 山田文 岩橋
	○児童が自ら進んで取り組む家庭学習の充実	○「自ら進んで家庭学習に取り組んでいる。」と答える児童を85%以上にする。	・自学メニュー表を提示したり、自学掲示板などで友達の自学を紹介したりして、児童が楽しんで学習できるような内容を提示し、学習意欲を高める。 ・家庭訪問で家庭学習の内容や学習時間の目安を保護者に説明し、家庭との連携を図る。					まなび部 中野原
	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師を80%以上にする。	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。 ・PDCAサイクルを意識した単元ごとの振り返りをもとに、指導の工夫改善を行う。					まなび部 原 高木
●心の教育【場・礼】	○整理整頓の意識付け	○「進んで履物をそろえている。」と答える児童を、90%以上にする。	・靴や上靴、トイレのスリッパは、周りの人のことを考え、そろえるように指導する。 ・委員会の児童や職員で、定期的な靴箱チェックを行い、全校放送で称賛したり、呼びかけを行ったりする。					くらし部 船津 築波
	○無言・無音掃除の徹底	○児童が、「無言無音掃除」の必要性を十分に理解し、「話もせず音も立てずに掃除をしている。」と答える児童を、80%以上にする。	・なぜ、「無言無音掃除」を行わなければならないのか、全ての児童が理解できるよう、粘り強く指導を行う。 ・掃除時間の前には、掃除場所を待ち、始まりとともに黙想をし、心を落ち着かせて無言無音掃除をするよう指導を徹底する。 ・掃除の前後に、全校放送を行うことで、無言無音掃除の意識付けを図る。					くらし部 草場 南
	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「『さん』を付けて友達を呼んでいる。」と答える児童を70%以上にする。	・児童の人権を尊重し、教師自らが模範を示したり、「さん」を付けて呼ぶことの意義を児童に伝えたりすることで、「さん」を付けて呼ぶことを意識させる。 ・9月や11月の月目標に合わせて、「さん」を付けて呼ぶことを意識する週間を設定する。 ・「ほめほめタイム」で「さん」を付けて呼ぶことができている児童を見つけてほめる。					こころ部 伊東 近藤 山崎
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「目上の人に、『です』『ます』の敬体を話している。」と答える児童を90%以上にする。	・「時・相手」を視点に置いた指導を維持するとともに、授業中の発表の際には、必ず返事をし、最後に「です」「ます」を付けることを徹底させる。					こころ部 近藤 中島 北島 井上
●健康・体づくり【基盤】	●望ましい生活習慣の形成	●「『早寝早起朝ごはん』を意識して生活している。」と答える児童を、休日を含め80%以上にする。	・「すこやか点検」で、項目に「10時までには就寝!決めた時刻までに起きる!」朝ご飯を食べる」を入れ、集計をとる。 ・保健便り、給食便り等で、早寝早起朝ごはんの大切さを呼びかける。 ・「食に関する指導の年間計画」に基づき、各学年の実態に応じた指導を行う。					からだ部 福田 森 川原 宮島
	○「高小流あいさつ」を習慣付け、学校や地域(家庭)でも、「時と場」に応じて、『立ち止まって、お辞儀をして』あいさつをしている。」と答える児童を85%以上にする。	・毎朝、計画委員会で「あいさつ運動」を実施し、毎日、給食時間に「あいさつ名人」を紹介する。 ・全校朝会で「高小流あいさつ」を紹介し、学期始めに、「あいさつ名人」を発表し、「あいさつ名人バッジ」と賞状を与える。 ・「めざせ!あいさつ名人」のポスターを作成・掲示し、日頃から意識できるようにする。						からだ部 高永 村田
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(月45時間、年間360時間)を遵守し、勤務時間を意識した働き方を定着させる。	・部会業務の分掌とともに、学年主任と各専門部部長の分離やミドルリーダーとしての重責化を促進し、業務の平準化を図る。 ・士気を高めて児童と向き合うために成績2期制を継続実施し、評価時期には約17日間の特別校時を設定する。 ・会議数(時間)や協議内容を精選するとともに、学年主任や専門部部長を中心とした業務等の役割分担による教材・資料の共有化を進め、時間外在校等時間の減少を図る。 ・通勤時刻の上限(月～木曜日20:00、金曜日18:00)を設定し、通勤時刻までの時間を効率的に活用するという意識化を図る。					教頭 主幹教諭

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望